

博物館だより

No.40

平成21年8月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

「不動Ⅳ」向井澄男写真展

当館では8月30日まで企画展「不動Ⅳ」向井澄男写真展を開催しています。

向井澄男さんは長年にわたリ京築地方の風物を撮り続けた写真家で、その作品は数万点にのぼります。平成15年に亡くなられてのち作品は遺族から当館へ寄贈され、現在整理作業を進めています。

今回の企画展では、整理が終了した作品群から「昭和」をテーマに、約100点の写真を展示しています。

ぜひ、ご来館下さい。
■開催期間 8月30日(日)



▲花祭り演芸会
(昭和63年・みやこ町犀川木井馬場 即伝寺)

■開催場所 博物館展示室
■観覧料 常設展の観覧料で
ご覧いただけます。

第14回 小学生歴史たんけん 作文コンクール作品募集



色んなことにチャレンジできる夏休み、日本や世界各地はもろろん、身近な町や地域の歴史を図書館や博物館で調べたり、まわりの人たちに取材して「歴史たんけん」してみませんか？夏休みにあなたが調べた歴史のことをまとめた作文を次のとおり募集します！

◎京築地方の小学5・6年生なら誰でもOK！
◎内容はふるさとの歴史や歴史の本を読んだ感想(※先行先で

調べた歴史など、歴史に関することなら何でもOK！

◎400字詰め原稿用紙3〜5枚程度にまとめてください。

♪応募方法 作品に住所・氏名・学校名・学年を書き、個人または学校単位で当館へ郵送して下さい。

♪しめきり日 9月11日(金)

♪結果発表 平成21年10月下旬。参加賞のほか、優秀賞に賞状・賞品を贈呈。

博物館友の会

会員募集!

みやこ町歴史民俗博物館の会では、平成21年度の会員を募集しています。

博物館友の会は「故郷を愛するには、まず故郷を知ることから」をモットーに、講演会やバスハイク、史跡めぐりなどの行事を行っています。

平成20年度の会員数は約220名で、いかなる団体からも補助は受けず、会費収入のみの独立採算で運営しています。

興味のある方なら、どなたでも参加いただけます。ぜひ、ご入会ください！

♪入会の方法

博物館の窓口で会費を納めてください。

♪年会費

個人会員 3000円

家族会員 1名2000円

※年度途中入会者は月割会費

♪お問い合わせ先

博物館内 友の会事務局

☎0930・33・4666



《古文書解読コーナー》

① 寄席

② 〈ヒント〉もとの座席に戻る

③ 取り

④ 〈ヒント〉受け取る

⑤ 袋

⑥ 〈ヒント〉カゴに乗って出発する

⑦ 籠

⑧ 〈ヒント〉仲よかつきあうこと

⑨ 交

⑩ 〈ヒント〉準備

⑪ 答 え

(反対向きに見てください)

- ① 籠
- ② 籠
- ③ 籠
- ④ 籠
- ⑤ 籠
- ⑥ 籠
- ⑦ 籠
- ⑧ 籠
- ⑨ 籠
- ⑩ 籠
- ⑪ 籠

みやこの歴史発見伝 29

郡長正の物語

郡長正

明治四年（一八七二）五月一日、遠く下北半島の斗南藩（旧会津藩）から留学し、豊津藩の藩校・育徳館で学んでいた郡長正という青年が、その留学先の豊津で亡くなりました。わずか一六歳という若さでした。

彼の死に至るまでの「物語」について、出身地である福島県会津若松市の博物館では次のように紹介されています。

『会津では、郡長正と父萱野権兵衛は忘れてはならない人だと言われております。父萱野権兵衛は、戊辰戦争の時会津藩の家老としており、戦後いわれなき逆賊の汚名を一身に負い、会津藩全体の責任をとり切腹して果てました。』
（中略）会津藩復興のために、家中の子弟から郡長正を始め、七名を選んで並々ならぬ期待をかけて九州豊津育徳館に留学させました。『中略』成績は優秀で群

を抜いていましたが、育ち盛り食べ盛りなので、激しい稽古や野外訓練の時など空腹でフラフラになりました。（筆者注：長正は）その空腹をいやすために、会津のみしらず柿を送って下さいと、国もと会津のお母さん恋しいことと近況を知らせるため一六才の時手紙を書きました。（中略、以下母の手紙）「お前は、大勢の家中の子弟の中から選ばれて学問の修行のために豊津へ下つたのに、事もあろうに寮の食事があれこれと空腹をなげいて、会津のみしらず柿を送れとはなんと見下げ果てた魂、会津武士の精神はどこへ置きやった。家中の方々にすまぬと思いませんか。父上の遺言を忘れたのですか。士道にそむく様ならば、もはや



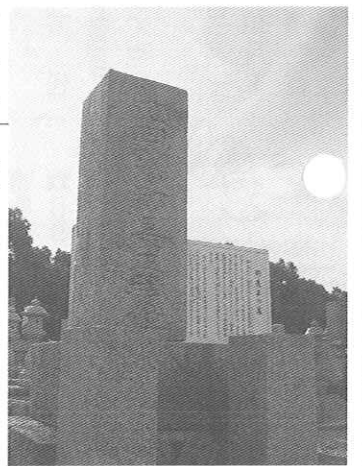
▲郡長正

萱野権兵衛の子ではありませぬ。同時に母の子とも思いません」（中略）長正は涙を流しながら自分の考えが浅はかで、間違っていた事をわびています。手紙は心の支えとして大切に持っていました。ある日それを落としてしまい、豊津の塾生に拾われ大勢の前で読まれました。（中略）そのあげく教室に貼り出されて、会津の武士道とは食事の事か、会津藩はいつもひもじい思いをしていた、だから戦争に負けたのではないかと皮肉まで言われました。（中略）この少年にできることは唯一一つ、

会津武士道の精神を貫くと言うことです。（中略）母への手紙なので何気なく書いた一言のため、会津藩全体の名誉を汚され、会津魂を疑われ、殿様の名折れとなつては申し訳ないと責任を取り、一六才で九州の地で露と消えました。（博物館会津武家屋敷解説パネルより）

史実との「はざま」

我々は過去へ行くことが出来ませぬので、歴史を知るには当時の人が書いた「文字」（手紙・記録）や、当時の人が作り、使った「物」（食器・衣服・住居）などを通して調べるしかありません。また、「文字」「物」なら何でも



▲郡長正の墓
（みやこ町豊津 甲塚墓地）

良いというわけではなく、確かな歴史を知るには、必ずその「文字」「物」が「一次史料」である必要があります。一次史料とは、その時代の人が、現に書いて、作って、使った「文字」や「物」のことです。後の時代に書かれたものや、創作物を用いて歴史を語ることは出来ませぬ。

では、郡長正の切腹に関してはどうかと言うと「物語を裏付ける一次史料は今のところみつからない」というのが現状です。有るのは墓石だけ、分かるのは墓石に刻まれた「明治四歳次辛未五月朔日」の命日だけです。巷間流布している物語は、作家・狭間祐行（天正一〇年旧制豊津中学校卒）の「会津魂」（『少年倶楽部』昭和四年二月号）が基になっています。

大切にしたい交流の歴史

裏付けとなる一次史料がみつからないため、郡長正の死にまつわる真実は謎のまま。ただ、それはそれとして、この

郡長正の物語があったからこそ、当地と遠く離れた会津との交流の歴史が築かれてきたことは、紛れもない事実です。

昭和三十一年、会津鶴ヶ城茶室の庭石と萱野家（郡長正実家の墓石の土台石が豊津高校（現育徳館高校）に「郡長正ゆかりの石」として贈られました。これを皮切りに官民の相互交流が進み、平成元年には会津より「楮の木」が町に贈られ、記念植樹式が行われました。昭和六一年からは豊津郷土史会による墓前供養祭が毎年五月一日に行われ、また、年間を通じ個人又は団体で遙々会津から墓参りに訪れる方が今も数多くいます。

歴史の真実を追求し、正しい歴史を伝えて行くことは、言うまでもなく大切なことです。しかし、郡長正の物語について、今後、裏付けとなる一次史料が発見される可能性は低く、真実を知ることが相対困難と思われれます。

そこで、あえて真実の追求は、時が来るまでの「無期延期」とし、わずか一六歳でこの世を去った青年が、我々にもたらしてくれた、かけがえのない交流の歴史を、永く、大切に育てて行くことこそ、その死に報いる道ではないかと考えるのです。（川本英紀）